

## 福祉サービス第三者評価結果

事業所名 有馬川はなみずき保育園

発効：平成28年2月16日（平成31年2月15日まで有効）

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	アリマガワハナミズキホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	有馬川はなみずき保育園
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒216-0002 神奈川県川崎市宮前区東有馬5-23-43 田園都市線「鷺沼」駅より バス15分
事業所電話番号	044-870-3434
事業所FAX番号	044-870-3435
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 村木 美千代
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人 子の神福祉会 法人代表者氏名 理事長 白井 寅三
URL	<a href="http://www.fujimiplaza.com/hanamizuki/index.html">http://www.fujimiplaza.com/hanamizuki/index.html</a>
e-mail	hanamizuki@maple.ocn.ne.jp
問合せ対応時間	8:30~17:30

事業所の概要1

開設年月日	平成25年4月1日
定員数	60名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄骨造り 2階建て
面積	敷地面積(603.7)㎡ 延床面積(414.66)㎡

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	17名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (1名) 保育士 (10名) 看護師 (2名) 調理員 (3名) 事務員等 (1名)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後5ヶ月～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性を受け止め、安心して過ごせ、発達に応じた活動が出来る保育環境を整備する。</li> <li>・大人や、子どもとの関わり合いの中で信頼関係を作る。</li> <li>・一人ひとりの保護者の思いを受け止め支援する。</li> </ul>
--

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

- 「①子どもの健やかな育ちを支援し、最善の利益を図る。②保護者の就労を保障し、地域の人々との交流を図り、福祉の増進を図る。」ことを保育理念に置き、三つの保育方針のもとで、日々の保育を実践している。定員60名の少人数の園で、地域の中の「大きな家」として、子どもたち一人ひとりに向き合い、子どもたちの声を聞いている。
- 食育に力を入れている。給食は業者に委託しているが、調理師が昼食の様子を確認したり、子どもたちに栄養や噛むことの大切さの話をするなど、子どもたちと顔の見える関係作りを行っている。毎年10月には調理師がさんまを実際に見せ、園庭で全員分のさんまを焼いて昼食に提供している。「命をいただきます」の話を聞き、年長クラスは骨の取り方などを学んでいる。
- 園庭のプランターや同一法人の高齢者施設で収穫した野菜などを使い、子どもたちがおやつ作りなどのクッキングに取り組んでいる。子ども用の調理器具も用意し、クッキングの時に使用している。また、収穫した野菜は、園内で調理する他、家庭に持ち帰って、親子で調理を楽しんでいる。
- 同一法人の高齢者施設を訪問し、「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会」で折り紙などを教わっている。毎月の施設の誕生会には、クラスが交代で訪問し、歌をプレゼントしている。また、高齢者施設の屋上でサツマイモの苗を植え、収穫するなど、高齢者との交流の機会を定期的に設けている。
- 異年齢の交流は日々の保育場面で自然に行い、子どもたちが一緒に遊んでいる。園の大きな行事に10月の運動会、12月の生活発表会があり、異年齢の子どもたちが一緒に取り組んでいる。クラス間の仕切りは、すぐに収納することができ、異年齢の子どもたちが合同で活動している。
- 園周辺の散歩コースを作成し、年齢に合ったコースを選んで散歩に出かけ、四季折々の自然に親しんでいる。幼児クラスは近くの「植木の里公園」に散歩に行き、地域の子供たちと一緒に遊んでくることが多い。川崎市宮前区（以下、区）主催の「保育まつり」に子どもたちが参加したり、ドラえもんミュージアムに行くなど、地域や社会との交流を深めている。
- 看護師による「健康集会」を定期的に行い、健康の大切さを教えている。寒くなると風邪を引く子どもが多くなるが、咳をするとどれくらい風邪の菌が飛ぶか、手をきれいに洗わないとどれくらいの洗い残しがあるかなど、わかりやすく話をして、子どもたちに手の洗い方などを伝えている。
- 地域の子育て支援として、園庭を毎日開放し、個別の子育て相談も、随時、受け付けている。移動水族館や音楽会、さんまの食育、人形劇、親子でランチなどの園の行事に、地域の親子の参加を呼びかけている。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもや保護者に対する適切な言葉遣いや態度は、「平成27年度運営方針」の「職員の職務」に記載し、年度始めの全体会議で内容の説明を行い、職員に周知している。</li> <li>○個人情報の保護や守秘義務については、「平成27年度運営方針」の「職員の職務」に記載し、全体会議や乳児、幼児会議で職員に周知している。保護者には、「個人情報使用同意書」にて説明を行っている。</li> <li>○子どもの虐待予防や早期発見のため、区の保育課主催の研修会に参加したり、園長会で情報交換を行っている。気になる子どもは朝の視診の結果を保育日誌に記録し、区の保育課や児童相談所に相談している。</li> <li>○園を開設して3年目で、実習生の受け入れは今年度が初めてとなる。受け入れ時はオリエンテーションを行い、プライバシーの保護について実習生に周知する予定である。</li> </ul>
---	--------	--

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	○家庭との連絡、情報交換は、「入園のしおり」に手段や方法を記載し、0、1、2歳児には、個別の「連絡帳」で、3歳児以上は「今日の保育」にクラスの状態を記入し、家庭との情報交換を行っている。 ○クラス懇談会や個人面談をそれぞれ年2回行い、保護者の意向や要望、意見を確認している。また、保育参観・参加を行う他、保護者会でも意見を聞いている。園の行事の開催後には、保護者アンケートを実施し、行事の振り返りに反映するようにしている。 ○意見と苦情は区別せず、「苦情受付簿」にまとめている。保護者からの声は苦情と受け止めず、改善への提案として受け止め、保護者から信頼を得られるようにしている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	○苦情解決の仕組みは、「平成27年度運営方針」や「重要事項説明書」で、解決までの手順を明記している。苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員を設置し、園内に苦情解決のポスターを掲示している。 ○室内環境は、「健康管理マニュアル」に、温度や湿度の管理、危険物の取り扱い、玩具や遊具などの点検や消毒方法を定め、ミーティングノートに状況を記録している。 ○体調不良児の早期発見、対応に努めている。朝の送りの際に、保護者から連絡帳や口頭で状態を伝えてもらい、在園中も健康状態の把握に努めている。 ○感染症の情報は、「クラスだより」に掲載する他、園内に感染症の情報を掲示して保護者に伝えている。インフルエンザなどの罹患時には、登園許可証明書により、登園の判断を行っている。 ○月ごとに担当者を決め、消火、避難、地震、通報訓練などの防災訓練を、毎月実施している。防災訓練は職員全体会議で内容を周知するとともに、実施後は報告書を回覧している。また、区の保育課より不審者情報を入手している。自衛消防団も組織している。
4	地域との交流・連携	○幼児クラスは近くの「植木の里公園」に散歩に行き、地域のこどもたちと一緒に遊んでくることが多い。区主催の「保育まつり」に子どもたちが参加したり、ドラえもんミュージアムに行くなど、地域や社会との交流を深めている。 ○副主任保育士と保育士の2名を地域担当に決め、地域の子育て支援に取り組んでいる。園庭を毎日開放し、移動水族館や音楽会、さんまの食育、人形劇、親子でランチなどの園の行事に、地域の親子の参加を呼びかけている。案内は、園に置く他、区の生涯学習支援施設「アリーノ」などにも置いている。 ○地域の子育て相談は、園の見学に来た際に受けることが多い。子育て相談は、園長以下3名で対応し、随時、相談を受け付けている。 ○地域内の諸施設との連携として、区の社会福祉協議会の会議に定期的に参加する他、地域の小学校とも情報交換を行っている。また、地区の園長会でも情報交換を行っている。
5	運営上の透明性の確保と継続性	○年間計画作成時には、前年度の評価、反省を行い、次年度の計画につなげている。行事はその都度、指導計画は月ごとや四半期ごとに振り返りを行っている。 ○「えんだより」や「クラスだより」、「ほけんだより」、「ばくばくだより(給食だより)」を月1回発行する他、ホームページにも園の活動を掲載し、情報提供に努めている。 ○保護者の保育参観・参加は、入園のしおりや年間行事予定表などで知らせ、「えんだより」であらためて周知している。保育参観・参加、個人面談は、定期的に行う他、随時、受け付けている。

6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none"><li>○年間の研修計画の中で、日程が決まっているものに関しては、あらかじめ参加者を決めている。外部研修に参加した時には、報告書を回覧するとともに、職員全体会議で研修報告を行っている。</li><li>○研修報告のファイルは事務所に置き、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。</li><li>○実習生の受け入れを主任保育士とし、今年度からの実習生の受け入れに備えている。</li></ul>
---	-----------	--

## 2. 評価項目に基づく評価の結果

### 大項目1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目1全体（調査確認事項全80事項）を通してのサービスの達成状況	93%
-----------------------------------	-----

#### 大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士との                      かかわりにおいて、子                      どもの情緒の安定をは                      かることや、順調な発                      育・発達を促すため                      にどのような取り組み                      をしていますか</p>	<p>①個別ノートや記録を活用しながら保護者                      や保育士と連携を図り、子どもの気持ち                      を理解し安定した生活が送れるようにし                      ている。                      ②日々の保育の中で、保育士に気持ちを                      受け止めてもらい安心して過ごす。                      ③触れ合い、リズム遊びを保育士と一緒                      に楽しむ。</p>	<p>①0、1、2歳児は毎日「連絡帳」で保護者と                      子どもの様子を連絡し合い、子どもに変                      化があるときは、保護者や他の保育士と                      話し合い、安定した生活が送れるようにし                      ていることを、「連絡帳」や「今日の保育」                      で確認した。                      ②2歳くらいになると、まだ自分では完全                      にできないが、「自分でやりたい」気持ち                      が出てくること、その気持ちを大切に                      して、保育士が手伝いながら満足感                      が得られるような関わりを行っている                      ことを、「月間保育指導計画」や「週                      間保育指導計画」で確認した。                      ③毎週月曜日の「にこにこデー」、                      「リトミック」など、担当の保育士                      が計画を立て、子どもたちと触れ                      合い遊びやリズム遊びを行っている                      ことを、「幼児歌の会・にこにこ                      デー」や「年間予定表」、「実施                      表」、訪問調査当日のリズム遊                      びなどで確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわ                      りにおいて、個の違                      いを認めあうことや他                      者と自分を大切にす                      る心をもてるように                      するためにどのような                      取り組みをしています                      か</p>	<p>①運動会など異年齢交流や、みんなの前                      で質問に答える場                      面を設ける。                      ②お互いの気持ちを聞き、自分がされ                      たらどう思うかなど                      伝える。                      ③伝えたいことがうまく言えない1、                      2歳児には、保育                      士が言葉の仲立ち                      をし代弁をする。</p>	<p>①異年齢交流は日々の保育場面で自然                      に行われ、子ども                      たちが一緒に遊ん                      だこと、園の大き                      な行事に10月の                      運動会、12月の                      生活発表会があ                      り、異年齢の子                      どもたちが一緒                      に行うことが多い                      こと、年長クラ                      スでは、どんな                      ことをやりたい                      かを皆で話し合                      い、出し物やど                      のように行うか                      などを相談して                      決めていること                      を、「はなみず                      き保育園(大切                      にしていること                      ・異年齢交流)」                      や「行事計画報                      告書」などで確                      認した。                      ②以前、発達障                      害の子どもが                      いたが、個別指                      導計画を作成し                      、他児との違                      り取りでパニッ                      ック状態にな                      った時などは、                      クールダウン                      をし、気持ちが                      落ち着いてから                      本人の思いを                      聞くようにし                      ていたことを、                      「個別指導計                      画」で確認した。                      ③1、2歳の                      子どもたちは、                      自分の思いを                      伝えたいが思                      うように言葉                      がでないことが                      多くあること、                      おもちゃの取                      り合いがあっ                      た時など、「貸                      して」と言う                      んだよ、貸し                      てもらったら                      「ありがとう」                      だよ、言葉の                      仲立ちをして                      関わっている                      ことを、聴き                      取りで確認                      した。</p>

<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①異年齢・高齢者との交流により、人と関わる場面を多く持っている。                  ②散歩マップにより、公園などに行き、地域の人たちとの関わりを持っている。                  ③公共施設の利用や社会に積極的に関わる(買い物、バス、電車に乗る機会を持つ)。</p>	<p>①同一法人の高齢者施設を訪問し、「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会」で折り紙を教わったりしていること、また毎月の誕生会に訪問し、各クラスが交代で歌のプレゼントをしたり、高齢者施設の屋上でサツマイモの苗を植え収穫するなど、高齢者との交流を積極的に行っていること、「また来てね」と言われ、自分のやったことがうれしく、子どもたちの自信につながっていること、自分のおじいちゃんおばあちゃんにも手紙を出していることを、「はなみずき保育園(大切にしていること・異年齢交流)」や「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会チラシ」などで確認した。                  ②幼児クラスは近くの「植木の里公園」に散歩に行き、地域の子どもたちと一緒に遊んでくることが多いこと、小学校の下校時などには、卒園児から声をかけられたりしていることを、「お散歩マップ」や「行事計画・報告書」で確認した。                  ③公共の乗り物に乗り、区役所主催の「保育まつり」に参加したり、ドラえもんミュージアムやズーラシアなどに行き、楽しみながら社会との関わりやマナーを覚えていることを、「手作りしおり」や「写真」などで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①日々の保育の中で、絵本、紙芝居、読み聞かせなどを常に行っている。                  ②保育を行う前の導入などで、手遊び、わらべ歌遊びなどを行っている。                  ③コーナーを設け、ごっこ遊びを子どもと一緒にしている。</p>	<p>①運営法人から毎月1冊ずつ各クラスに絵本を贈り、自分たちの本として、いつでも自由に本棚から出して読むことができるようにしていること、日々の保育で読み聞かせを行っているが、金曜日には園の本を家に持ち帰り、自宅で保護者に読んでもらう機会を作っていることを、「保育指導計画」や本棚の様子で確認した。                  ②食事の前や活動のクールダウン、保育の導入時などに、絵本の読み聞かせ、手遊びを行っていること、また、わらべ歌などを皆で歌っていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ③自由遊びの時には保育室内にさまざまなコーナーを設け、お母さんごっこ、お医者さんごっこ、積み木遊びなど、好きな遊びができるようにしていること、郵便ごっこをしたいと子どもたちから希望があり、箱でポストを作り、玄関わきに設置し、手紙を入れて遊んだりしたことを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①子ども自身の言葉で思いを伝える場を設ける。                  ②自分の話を聞いてもらう発表の場を持つ。                  ③何時でも聞いてもらえる環境を作る。</p>	<p>①12月の生活発表会では、年長クラスが「サルカニ合戦」の劇を行ったが、クラスの中の一人が水ぼうそうになり休んでしまったこと、「卒業までに全員でもう1回劇遊びをしたい」という声上がり、いつやるかななどを皆で話し合い、3月に全員そろって再度、劇遊びを行ったことを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②作品の製作を続けてやりたい、園庭で遊びたいと、子どもたちの思いがばらばらになった時、自分はどうしたいかを皆で話し合い、クラスの半分は製作を、半分は園庭遊びを行うなど、自分の考えを皆に聞いてもらう場を作っていることを、「保育指導計画」や訪問調査当日の保育士と子どもたちのやりとりで確認した。                  ③登園時に保護者から「朝、喧嘩した」などの話があった時などは、保育場面でその子どもの感情をさりげなく受け止めて、何時でも話を聞くことができるようにしていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①作った物をみんなが見える場所に展示する。                  ②体操、リズム遊び、身体表現の場を持つ(にこにこデー)。                  ③歌、手遊びをする。</p>	<p>①子どもたちが製作したものは、皆が見えるように展示していること、以前、ごっこ遊びで製作したポストを玄関に置き、保護者にも見てもらったことを、「保育指導計画」や訪問調査当日の保育室の様子で確認した。                  ②毎週月曜日の「にこにこデー」、「リトミック」などで、担当の保育士が計画を立て、体育遊びなど、身体を動かしたり、表現する場を設けていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ③日々の保育の中で、季節の歌を取り入れて、皆で歌っていること、手遊びも取り入れ、子どもたちの発達を促していることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①クラスの中にいろいろな遊びのコーナーを設け、自主的に好きなコーナー遊びができるようにしている。                  ②異年齢保育の中で集団遊びや、各クラスで行うドッジボールなどの集団遊びを、子ども同士が工夫して行っている。                  ③異年齢でのゲーム遊び。</p>	<p>①園舎の広さから常設のコーナーは作れないため、クラスごとに絵本コーナー、積み木コーナーなどを作っていること、子どもたちはクラスの中で好きなコーナーに行き楽しんでいることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②年長クラスがドッジボールをしていると、年少クラスの子どもが「入れて」と入ってくることがあること、小さな子どもが入ってくると、皆、意識的にボールの投げ方を加減したり、危険がないよう工夫したりして一緒に遊んでいることを、「保育指導計画」や訪問調査当日の子どもたちの様子で確認した。                  ③兄弟や友達のつながりから、園内では異年齢の子どもが自然に一緒に遊んでいること、年少の子どもは年長の子どもに憧れを持ち、年長の子どもは小さい子どもに、いたわりの気持ちを持って接していること、ゲーム遊びなどでも、とてもよい関係ができていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①クッキングで包丁を使用、調理器具を用いた活動。                  ②リズム遊び。                  ③絵本の読み聞かせを通し、身近なものへの関心につなげている。</p>	<p>①保育の中にクッキングを取り入れていること、子ども用の調理器具は調理室に保管し、クッキングの時に、包丁、まな板など必要なものを使って、子どもたちが調理していること、クッキングでは、おにぎり作り、鍋パーティーの準備、サンドイッチ作りなどを行っていること、年長クラスが食材の買い出しに行き、3歳クラスはコンニャクの千切りや、ゆで卵のカラむきなどを行っていること、調理の職員も参加して、包丁の使い方などを教えていることを、聴き取りで確認した。                  ②日々の保育の中で、リズム遊びを取り入れ、運動会の異年齢児によるリズム遊びなどで、身体を動かす楽しみや感覚を養っていることを、聴き取りで確認した。                  ③絵本の読み聞かせなどから、身近なものへの関心を高め、散歩のときなどに実際に手に取ってみたりしていることを、聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①各年齢に合った散歩コースを選び、自然に親しみ、興味・関心を持つようにしている。                  ②身近な自然に触れる、園内で野菜、花を育てる。                  ③園内で虫、魚を飼育する。</p>	<p>①園周辺の散歩コースを作成し、年齢に合ったコースを選び、子どもたちが四季折々の自然に親しんでいること、虫探しのため、虫かごを持っていくこともあることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②園内のプランターでキュウリ、ナス、トマト、スイカなどを栽培し、給食で調理してもらっていること、また野菜を家に持ち帰り、保護者と一緒に調理することもあること、子どもたちは家で作った料理を写真にとって見せていること、また同一法人の高齢者施設の屋上では、サツマイモの苗を植えて育て、秋には高齢者と一緒に収穫していることを、「保育指導計画」や「野菜の収穫の写真」で確認した。                  ③散歩中に捕まえた虫や、近所の方から頂いたカブトムシ、カニなどを飼い、育てていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①自分でご飯、味噌汁をよそう。                  ②栽培物の世話をし収穫し、食材への興味を持つ(本物に触れる)。                  ③自分で食べる意欲を持つ。</p>	<p>①自分で食べられる量を把握できるよう、給食のご飯や味噌汁は自分で盛り付けしていること、また、お代わりも自分でよそうようにしていることを、「保育指導計画」や訪問調査当日の昼食の様子で確認した。                  ②プランターで野菜の世話をし、作る人の気持ちを考え、どんな料理にして食べるのかを、実際に収穫物を見て考えていること、収穫した野菜はお昼の食材として、調理室で使ってもらっていること、自分たちが作った野菜は、嫌いだった野菜でも食べられるようになっていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ③乳児クラスや年少クラスは、異年齢で行うクッキングなどの体験で、年長の子もたちと一緒に作り、一緒に食べることで、自ら食べようという意欲が湧き、残さず食べるようになっていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>

<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①健康集会で、健康の大切さを聞く。 ②食育活動で調理師さんから聞く(よく噛んで食べるなど)。 ③手洗いの仕方を掲示する。</p>	<p>①看護師による「健康集会」を定期的に行い、健康の大切さを教えていること、寒くなると風邪を引く子どもが多くなるが、咳をするとどれくらい風邪の菌が飛ぶか、手をきれいに洗わないとどれくらいの洗い残しがあるかなど、実験を交えてわかりやすく話をして、手の洗い方を学んでいることを、「行事計画報告書」や聴き取りで確認した。 ②調理は委託業者だが、食育活動に協力的で、「3色食品群」栄養素の糖質、たんぱく質、ミネラルを3色に色分けしわかりやすく話し、栄養の大切さを理解できるようにしていること、子どもたちは、よく噛んで食べることの大切さなどの話を聞いていることを、「3色食品群」の掲示物や聴き取りで確認した。 ③手洗いの仕方を「健康集会」で学んでいること、また、手洗いの方法がわかるように掲示していることを、「行事計画報告書」や聴き取りで確認した。</p>
---	---	--

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①にこにこデー実施、異年齢活動(異年齢で散歩)。                  ②定期的に高齢者と交流。                  ③食育活動。</p>	<p>①毎週月曜日に「にこにこデー」を設け、身体を動かす「リトミック」などを行っていること、保育士が担当制で計画を立て、また異年齢活動を多く取り入れ、心の成長を図っていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②同一法人の高齢者施設に定期的に出掛け、高齢者の散歩を手助けしたり、遊びを教えてもらったりしながら、高齢者への尊敬の気持ちを育んでいることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ③自分達が食べている食材に関心を持ち、どのようにしてでき、どのように調理し、給食としていただくかを知り、作ってくれた人への感謝の気持ちを育み、残さず食べて健康な身体を作るようにしていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①個別ノートや記録の活用、個別指導計画作成。                  ②加配保育者の配置。</p>	<p>①発達障害の子どもがいたが、療育センターや保護者との連携を密にし、安心して保育園で過ごせるように配慮したこと、個別指導計画を作成し、生活の中での出来事を細かく記録して、落ち着いて生活できるように取り組んだことを、「個別指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②障害のある子どもの加配保育者は、その子どもにだけ関わるのではなく、全体に目が行くようにし、その中で障害を持つ子どもが他の子どもと適切に関われるように配慮していること、現在は外国籍の子どもはいないことを、聴き取りで確認した。</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①離乳食は個々の発達に応じて献立をたてている。                  ②アレルギー児の配膳確認を調理師、保育士双方で行い、アレルギー児の配膳は別トレー、机を使用している。                  ③病後の登園時、病院受診後は健康連絡カードに記入してもらっている。</p>	<p>①委託業者の栄養士が献立表や離乳食献立表を作成していること、発達に応じて保護者と相談しながら、離乳食は個別に対応していること、まだミルクを飲んでいる子どもは、時間に合わせてミルクを調乳して飲ませていることを、「献立表」の掲示や昼食のメニューの展示、「離乳食献立表」で確認した。                  ②アレルギーのある子どもには、個別に除去食を提供していること、間違いのないよう食事を厨房から受け取る時には、調理員と保育士が個人カードを確認していること、除去食はトレーの色を変え、テーブルは別にして、他の子どもと区別していること、配膳の際には、除去食の子どもの配膳を先にしていることを、「アレルギーチェック表」や訪問調査当日の昼食の様子で確認した。                  ③病後に登園する際には、医師から登園許可証をもらい、健康連絡カードに記入してもらっていることを、「健康連絡カード」や聴き取りで確認した。</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①調理師参加のもと、さんまを園庭で焼いて食べる。                  ②育てた野菜を家庭に持ち帰り、親子で料理する。                  ③保育の中で子どもたちのクッキングを行っている。</p>	<p>①栄養のことや噛むことの大切さを調理師が説明するなど、食育に力を入れていること、野菜を栽培、世話をし、収穫後は園内で調理していること、また毎年10月には調理師がさんまを実際に見せ、園庭で全員分を焼いて昼食で食べていること、「命をいただきます」の話を聞き、年長クラスは骨の取り方などを教えてもらいながら食べていることを、「3色食品群」や「写真」などで確認した。                  ②収穫した野菜は園内で調理する他、家庭に持ち帰って親子で楽しんで調理していること、「サラダを作った」など、写真を持ってくる子どももいることを、「保育活動計画」や「写真」などで確認した。                  ③子どもたちで調理器具を使い、サンドイッチ、プリンアラモードなどを作り、食への関心を育むようにしていること、同一法人の高齢者施設の屋上では、サツマイモを栽培し、収穫していること、今年はサツマイモの収穫後に、茶きん絞りを作る予定であることを、「茶きん絞り作りチラシ」や「パクパクだより」などで確認した。</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①保育参加、参観。                  ②個人面談(園長、担任)。                  ③連絡用紙、ノート活用。</p>	<p>①保育参加は申込制をとり、子どもたちには事前に「〇〇ちゃんのお母さんがきます」と伝えていること、保護者には、保育士の立場に立って子どもたちに関わってもらっていること、保護者のほとんどが年に一度は保育参加、参観をしていることを、「保育指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②保育参加や参観の後には、園長や担任との個人面談を行い、保護者の思いを確認し、子どもたちの成長をともに喜び、味わっていることを、聴き取りで確認した。                  ③乳児クラスは「連絡帳」で、幼児クラスは「今日の保育」での保護者との連絡で、また、登園、退園時のコミュニケーションで、保護者との連絡を密に行っていることを、「連絡帳」や「今日の保育」で確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①地域の子育て支援として、園庭開放、親子でランチなどを行っている。                  ②園での催し物、移動水族館、人形劇に、地域の子どもたちを誘い一緒に楽しむ。                  ③何時でも園見学及び育児相談を行っている。</p>	<p>①地域の子育て支援として、園庭開放や親子でランチなどを行っていること、その時に個別の相談を受けていることを、「園庭開放」や「親子でランチ」で確認した。                  ②移動水族館や人形劇の劇団の来園時には、地域の子どもたちにも参加を呼びかけ、園児と一緒に楽しんでいることを、「触れ合い移動水族館がやってきたチラシ」や「写真」で確認した。                  ③園の見学や育児相談は、いつでも行っていることを、聴き取りで確認した。</p>

### 3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

#### (1) 調査の状況

調査期間	平成27年9月
調査方法	所定の調査票(アンケート票)により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を経由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 52通 : 返送通数 38通 : 回収率 73.1%

#### (2) 調査結果の傾向

##### ◆アンケート調査全体の傾向

- 項目別の回答状況では、「保育方針の周知」や「園での子どもの様子の報告」、「在園中の体調不良やケガの説明」、「インフルエンザなどの感染症の情報提供」、「遊具の清潔面や安全面の配慮」、「保育内容」、「子どもが楽しく過ごせている」について、高い満足が得られている。
- 一方、「子どもの個別の事情への相談」や「保育内容についての疑問への回答」、「懇談会など園との意見交換」、「防犯対策」、「緊急時の連絡体制」、「子どもに対する職員の対応や態度」、「保護者に対する職員の対応や態度」については、課題があるとの声が寄せられ、より一層の努力が期待されている。
- 個別意見では良い点として、「保育士の対応や挨拶」、「クラスに関係なく保育士が子どもや保護者に声をかけてくれる」、「給食がおいしい」などが挙げられている。
- 保育内容では、「食育に力を入れている」、「行事やイベントが充実している」、「高齢者との交流がある」などに、多くの意見が寄せられていた。
- 一方、改善を望む点としては、「保育士の対応」、「説明が少ない」、「情報の伝達が遅い」、「対応がまちまち」などの意見が挙げられている。園に改善を望む点について、具体的な内容が挙げられていることから、今後の取り組みの課題として位置付けることを期待する。